



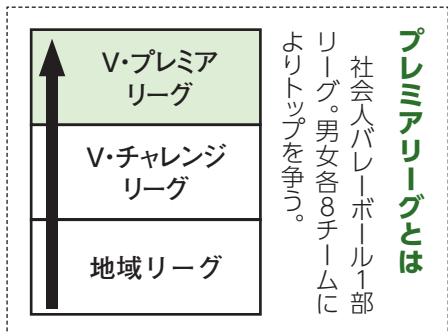
上尾メディックス

V・プレミアリーグ昇格へ!

悲願のV・プレミアリーグ昇格への切符を賭け、4度目の挑戦となるV・チャレンジマッチ(入れ替え戦)に挑んだ上尾メディックス。プレミアリーグ7位のJTマーヴェラスに見事勝利し、来季昇格の権利を獲得した。



フルセットの大接戦となった第1戦、セットカウント3-1のリードを守った第2戦の両試合を、チームの持ち味である「全員バレー」で勝利した。



4月5・6日、さいたま市記念総合体育館で行われた2013/14 V・チャレンジマッチ。2日間に及ぶ激闘に終止符が打たれた瞬間、会場は割れんばかりの歓声に包まれました。勝利したのは、上尾中央医科グループ女子バレーボールチーム「上尾メディックス」。感極まり、涙を浮かべて喜びを分かち合う選手たちの姿から、この試合に賭け

た思いが伝わってきました。V・チャレンジマッチとは、2部に相当するチャレンジリーグの上位2チームと、1部に相当するプレミアリーグの下部2チームが、来季の昇格・残留を賭けて火花を散らす入れ替え戦。これまでに3度の出場を果たしながらも、昇格を目前にして悔し涙をのんできました。今季は17勝1敗・準優勝と

いう成績で出場を決め、強豪・JTマーヴェラスと対戦。悔しさをばねにチーム一丸となって戦い抜き、悲願のプレミアリーグ昇格への権利を手に入れました。6月の日本バレーボール機構の理事会を経て正式決定するプレミアリーグ昇格。4度目の挑戦でついに長年の夢をつかんだチームの挑戦は、まだ始まったばかりです。

悲願は喜びの涙へ 思いが結実した運命の試合

Comment

選手たちがトップを目指せる環境づくりを

4度目の入れ替え戦というプレッシャーの中でも、選手たちが集中して冷静に試合に臨めたことが勝因の一つになりました。仕事との両立をこなす忙しい選手たちが、リーグでトップを目指せる環境づくりを今後も行っていきます。



監督
吉田 敏明

応援は最大の攻撃！ みんなに愛されるチームへ

チャレンジマッチでは、たくさんの声援を受けて勝利することができました。上尾にあるチームとしてもっと市民の皆さんにも知ってもらい、応援してもらえるチームになれるよう、ますます頑張っ勝利を目指します。



キャプテン
土田 望未





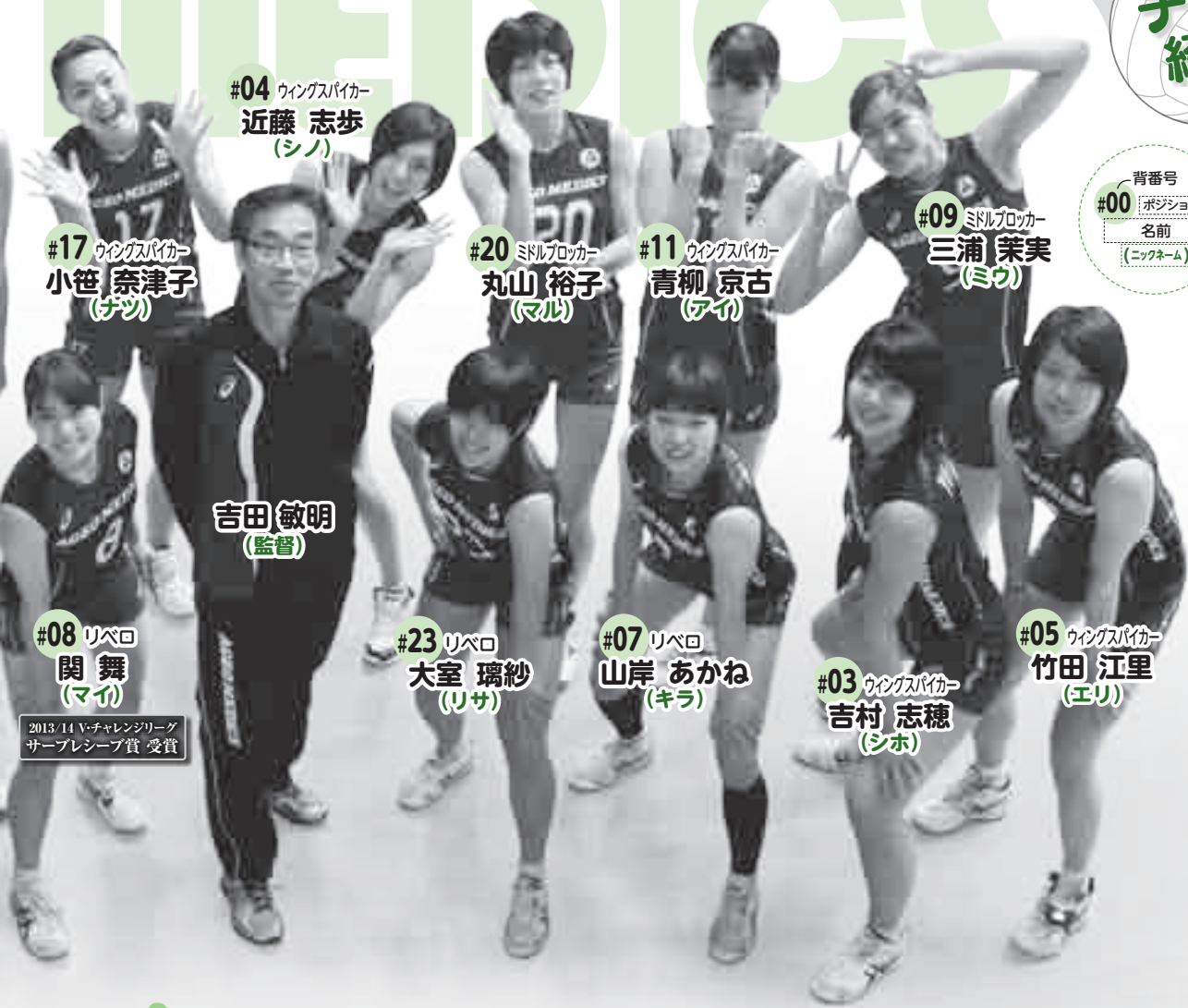
MEDICS



これが

上尾メディックスだ!

背番号
#00
ポジション
名前
(ニックネーム)



#04 ウイングスパイカー
近藤 志歩
(シノ)

#20 ミドルブロッカー
丸山 裕子
(マル)

#11 ウイングスパイカー
青柳 京古
(アイ)

#09 ミドルブロッカー
三浦 茉実
(ミウ)

吉田 敏明
(監督)

#17 ウイングスパイカー
小笹 奈津子
(ナツ)

#08 リベロ
関 舞
(マイ)

#23 リベロ
大室 璃紗
(リサ)

#07 リベロ
山岸 あかね
(キラ)

#03 ウイングスパイカー
吉村 志穂
(シホ)

#05 ウイングスパイカー
竹田 江里
(エリ)

2013/14 V・チャレンジリーグ
サーブレシーブ賞 受賞



成績

- 実業団6人制バレーボール選抜
男女 地域リーグ
- 第22回(2002年)
 - 一次リーグ 2位
 - プレーオフ 3位
 - 第23回(2003年)
 - 一次リーグ 優勝
 - プレーオフ 準優勝(V1昇格)
- V1リーグ
- 第6回(2003/04年) 6位
 - 第7回(2004/05年) 5位
 - 第8回(2005/06年) 8位
- V・チャレンジリーグ(改名)
- 2006/07年 3位
 - 2007/08年 3位
 - 2008/09年 3位
 - 2009/10年 準優勝
 - 2010/11年 優勝
 - 2011/12年 準優勝
 - 2012/13年 優勝
 - 2013/14年 準優勝

上尾メディックスの起源は、1965(昭和40)年にまでさかのぼります。その始まりは、なんとソフトボール部。試合成績の不振などから同部は廃部の道をたどりますが、1978(昭和53)年、バレーボール部として新たなスタートを切りました。

当時は福利厚生の一環として、上尾中央医科グループ内や上尾市内の大会に出場して

チームの歴史



2001年、実業団バレーボール部として正式に発足。その2年後に地域リーグで優勝を果たし、V1リーグに昇格しました。2009年、アメリカ代表監督も務めた経歴をもつ現監督・吉田敏明さんが就任すると、チームは初の準優勝、チャレンジマッチに初参戦しました。

2013年6月に後援会が発足し、意気込みも新たに迎えた昨シーズン。上尾中央医科グループ創設50周年でもある記念の年に入れ替え戦を制し、昇格の権利を獲得しました。



Ageo

コートの外ではこんな顔 普段の仕事も 一生懸命です!

青柳 京古 選手

私は上尾中央総合病院リハビリテーション科で、患者さんの案内や事務の仕事をしています。
職場の皆さんはいつも応援してくれていて、勤務の日にはいつも温かい言葉をかけてくれるので、バレーボールと仕事を両立することができています。支えてくれる人たちの期待を力に、これからも頑張っていきます。



#12 オポジット
ナンシー・ジーン・メットカフ
(ナンシー)

2013・14 V・チャレンジリーグ
得点王・敢闘賞 受賞

#22 セッター
七種 友紀子
(アサヒ)

#14 ミドルロッカー
伊東 千寿留
(チイ)

#16 ウイングスパイカー
皆本 明白香
(アスカ)

#10 ミドルロッカー
岡本 祥佳
(カヨ)

#13 セッター
大内 志織
(キヨ)

#18 ウイングスパイカー
辺野喜 未来
(ミク)

#02 ウイングスパイカー
東谷 幸子
(サチ)

#01 セッター
土田 望未
(アオ)

スタッフ

- コーチ 箕輪憲吾 / 井本大樹
- 特任コーチ 原 桂子
- トレーナー 馬晋 / 有方大介 / 尾中正靖
- アナリスト 山崎陽平
- マネージャー 平安座あきな / 下山裕子

地域に密着 上尾市が ホームタウンです!

上尾市内にあるプロスポーツチームとして、地元との交流も大切にしています。

昨年7月の「上尾メディックスバレーボール教室」には、市内の中学校のバレーボール部員約150人が参加し、選手たちから直接トスやレシーブなどの指導を受けました(写真①)。10月の「2013 Ageo まちフェス」でも、バレーボールを通じて多くの市民と交流を深めました(写真②)。



①中学生に親身に指導



②上尾メディックスバレーボール教室
交流会(ショーサンプラザで)